

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL.88
2023.8

TOPICS

1

学生×岡山市役所食堂のコラボでTFTメニューが誕生



岡山市役所の食堂で7月24日から開発途上国の子どもの給食を支援する TFT (TABLE FOR TWO)メニューの提供を開始しました。岡山大学では、大学生協と協働でヘルシー日替わりメニューやTFT弁当を提供し、それらの料金のうち20円を開発途上国の給食費として寄付しています。今回のコラボメニューは、本学のSDGsアンバサダー公認活動「岡山大学TABLE FOR TWO」の増山乃々子さん(経済学部3年)が中心となり企画しました。TFTは日本発の社会貢献運動で、先進国の飽食と開発途上国の飢餓の同時解決を目指すというものです。TFT対象のメニューを食べると、代金のうち20円が寄付金となり、TFT事務局を通してアフリカ・アジアの子どもたちへ給食が届けられます。

増山さんは、「学内だけでなく、学外での活動ももっと広めて、TFTについて多くの人に知ってもらいたいという思いからこの活動を企画しました。岡山市役所の食堂は一般の方も利用できますので、少しでも多くの方に食堂でランチをしていただき、TFTを身近に感じてもらう機会となればうれしいです」とコメントしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12285.html

TOPICS

2

「岡山大学最重点研究分野」を制定 ～地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学を実現するために～

本学は7月31日の役員会において「岡山大学最重点研究分野」として、①農作物・植物科学分野、②ヘルスケア分野、③IT・エレクトロニクス分野、④惑星科学・宇宙物理分野、⑤革新材料分野⑥考古学分野、⑦①～⑥に関係する融合研究、サービス・社会制度設計の7つの分野を制定しました。

①～⑥の分野は、研究IRに基づく、データ分析と未来予想分析から選定。また、イノベーション創出と定着が強く求められている状況から、本学が強みとする「総合知」の根底となるサービス・社会制度を選定しました。

今後、7つの分野では、研究力指標の更なる高みを目指すとともに社会実装となるイノベーション創出のKPIを設けて、社会変革の実現を目指します。また、今回の最重点研究分野の制定は、本学が申請中の地域中核・特色ある研究大学強化促進事業とも密に連携しています。

今回の最重点研究分野の制定は、従来の「重点研究分野」から次のステップに進み、さらに着実にありたい姿を実現するために実施したものです。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12288.html

Pick up!

岡山大学広報「いちよう並木」Vol.103を発行



本学の活動などを紹介する広報誌「いちよう並木」のVol.103を発行しました。

- 新入生の夢
- 新企画 街中University! vol.1
- 広い世界で活躍する岡山大学の学生たち
- 誇りと希望の学都へ 新執行部紹介
- 新任教員紹介
- OU NAVI

ぜひ、ご覧ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12269.html

TOPICS

3

伊達名誉教授が岡山県文化賞を、河合研究准教授が岡山県芸術文化賞準グランプリを受賞

「第75回岡山県文化賞」に、本学の伊達勲名誉教授が選ばれました。8月16日に行われた表彰式では、伊原木隆岡山県知事から伊達名誉教授に表彰盾が授与されました。

伊達名誉教授は、平成15年より本学医学部脳神経外科の教授を務め、脳動脈瘤や脳腫瘍を中心とした脳神経外科疾患の治療に取り組まれました。ITを駆使した新しい手術方式や手術機器を積極的に導入するとともに、再生医療など先端医療の研究を進め、脳神経外科学の発展に大きく貢献。その一方で、日本医学英語教育学会理事長として医学英語教育に尽力するなど、日本の学術・医療及び教育に大きく貢献したことが評価され、今回の受賞となりました。

また同日、優れた芸術文化活動の業績が認められる、あるいは長年にわたる地域における活動により県民文化の振興に顕著な功績が認められる個人・団体に贈られる「第24回岡山芸術文化賞」の準グランプリに、本学学術研究院医歯薬学域の河合研究准教授が選ばれました。河合研究准教授は、2022年に舞台芸術に関わる人材育成等を目的とした「第8回せんだい短編戯曲賞」の大賞を、全国286編の中から受賞。この業績が認められ、今回の受賞となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12303.html



TOPICS

4

オープンキャンパス2023を開催！

本学は8月5日、6日、8日、9日、10日の5日間、オープンキャンパスを開催しました。来学方式では心配されていた台風の影響もなく、県内外から6500人を超える高校生が訪れ、岡大ライフを体験しました。

来学方式のオープンキャンパスは10学部とグローバル・ディスカバリー・プログラムで開催。各学部の紹介や入試制度の説明のほか、研究室や農場の見学、本学の在学生や教員との相談会など、多彩な催しが開かれました。参加した高校生らは熱心にメモを取ったり、入試制度や大学の講義内容、将来の進路などについて積極的に質問をしていました。

また、法学部ではサプライズで那須保友学長が訪れ、「皆さん一人ひとりが主役です。岡山大学は学生の夢を応援しています」と応援メッセージを送りました。その後行われた写真撮影では、学長が高校生に声をかける場面もみられるなど、和やかな雰囲気の中で交流しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12293.html

PRESS
RELEASE

寒さに強いマウスは、細胞も寒さに強いー哺乳類の低温耐性は細胞に宿るー

理化学研究所生命機能科学研究センター冬眠生物学研究チームの吹田晃享研修生（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科麻酔・蘇生学教室博士課程4年）、砂川玄志郎チームリーダーらの共同研究グループは、休眠時の体温が特に低くなるマウス系統を見だし、その細胞は培養下でも寒さに強いことを発見しました。本研究成果は、冬眠動物に特有の低温耐性の解明を進め、ヒトを含めた非冬眠動物を冬眠させる人工冬眠の実現や、その応用による救急医療、臓器保存の技術開発に貢献すると期待できます。

今回、共同研究グループは、休眠時の低体温が系統によって異なることを発見し、STM2という近交系マウスで休眠中の体温が特に低く保たれていることを見つけました。冬眠動物の組織は、冬眠していなくても低温に強いことが知られています。STM2系統から樹立したES細胞を通常よりも低い温度で培養したところ、他の系統由来のES細胞と比べて、低温になってもミトコンドリアを使った代謝を維持していることが分かりました。さらに、STM2マウスから抽出した肝臓を組織培養した場合も、同様の低温耐性が確認できました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1126.html

